

平成 28 年 2 月 24 日

## 第 5 回 岸和田市産業活性化推進委員会 会議録

- 日 時 平成 28 年 2 月 24 日（水）10:00～12:00
- 場 所 岸和田市立産業会館 大会議室
- 出席者 (委員)  
鶴坂委員長 藤田副委員長 石田委員 伊藤委員 入野委員 植野委員  
浦山委員 川島委員 杉本委員 傳野委員 土井委員 永谷委員 永野委員  
松下委員 柳曾委員  
(事務局)  
小山部長 稲岡理事 池内課長 和田商工振興担当主幹 田中参事  
泉本主査 田中主査 中浜参事（観光振興担当） 原農林水産振興担当主幹
- 協議内容
- (事務局) 資料説明 資料 1 ～ 3 産業振興新戦略プラン【改訂版】について
- (委員長) 今、ご説明いただいた中で、ご質問、ご意見を頂きたい。
- (委 員) 今ご説明いただいた施策確認シート一覧表の中で 26 年実績と 27 年実績の数値について単位がわからない。
- (事務局) 資料 2 の指標の欄に括弧付けで単位をつけております。
- (委 員) 次回からわかりやすくしてほしい。
- (委員長) 2 回などを書いてもらう方がぱっと見てわかりやすいということで、次回からお願いします。
- (委 員) データを取るときに会議を何回実施したという報告もわかるが、人を集めることが目的の会議であれば、何人集めたかを含めて取ってほしい。たとえば、助成金額が総額いくらで何件というように。フォローする数字も単位も複合的にとってほしい。そうすると、次何をしたらいいかがわかる。それと、資料 3 の施策確認シートには予算的なものを書いているが、これは親切だと思う。市としてはこれだけの助成を出して、これだけの投資効果があったという感覚を持ってほしい。これだけの金額でこれだけの効果があったかというのがわかる。そんなふうに進めてもらったらと思う。

(委員) 次に何をしていくかというところが大事。単純に数字を増やしていくのではなく、こういう施策でこうするというものがないといけない。引き続き実施していくものもあるが。仕組みからいうと、大きな方向付けはこの会議でしていくということだが、ワーキンググループではもう少し具体的なことをしていくのだと思う。この会議で具体的施策の確認とあるが、項目がこれだけある中では難しいので、ワーキンググループをうまく活用することが大事。スケジュールを見ると、4～5月に活性化推進委員会を開き、その後6～8月にワーキンググループ、9月にまた活性化推進委員会を開くとのことだが、非常に間が開いた感じで見受けられる。ワーキンググループでは集まりやすい人を各団体で選んでいただいて、話し合いのうえで、具体的施策をどう進めていくのかという芯になる話をしてほしい。1ヶ月も2ヶ月も開いているのはどうかと思うので、活性化推進委員会が終わればすぐにもワーキンググループを集めてほしい。もうひとつは、ものによって28年度のことだけを決めるといって、これも片手落ちみたいなもの。成長戦略は相当長い期間で成果が出てくるもの。長期のものも折に触れて目標を設定し、同じような進行管理を作ってもらった方がよい。来年度のことだけというのではなく、積み重ねていくことが大事。

(事務局) ただいまご指摘いただいたようにすぐにワーキングで取り組んでいただけるようにしていきます。それに関して、各団体の皆様方には代表の方がお越しいただけるのか、それとも別の方がお越しいただけるかは検討のうえご推薦をお願いします。それと、長期に及ぶものという点ですが、ご指摘いただいたように長期スパンで見たときにどうなるかというものもわかるような資料作りに努めてまいります。

(委員) ある程度結論というか、結果も見てもらわないといけない。冊子を作ってもらったのはわかりやすい。ワンストップ窓口の構築とあるが、早い目に姿を現した方がいいと思いますのでよろしくお願いします。

(事務局) 市庁内の窓口についても、国の施策等をひとつの課で解決できるものではなくなくなってきており、各課で複合的に解決しなければいけなくなっています。ご指摘いただいた点につきましても、重点的に早期にお示しできるように進めていきたい。

(委員) 資料2に予算・決算が載っていないものがあると思いますが、載ってなくても進めることはできるのですか。

(事務局) 事業の中でも予算を確保して進めるものと、予算が確保できずにいる事業がございます。予算がつかないから何もしないということではなく、予算がなく

ともできるものがあるので精力的に進めていきます。次年度重点的に進めていくものや、予算がつかなくて、再度構築して進めていくこともあります。予算がつかなくても何らかの形で取り組んでいきたい。

(委 員) そしたら来年度も載せるとのことですね。ただ、特記事項の書いている内容でかみ砕いて書いてほしいものがある。例として、基本方針 11 の 11-2) の特記事項で、商店街の課題について産技研に相談したとあるが、これはどういうことか。

(事務局) これは鳩についてのこと（商店街内に群がる鳩への対策）を相談したということですか。

(委 員) それであればそのように書いてほしい。

(委員長) 他に質問なければ、また後ほどでもお願いします。それでは、次に議題の 2 の岸和田旧港地区周辺の魅力づくり構想について事務局からお願いします。

(事務局) 資料 4 について説明

(委員長) 今の構想案についてご意見ご質問をお願いします。

(委 員) この中で、課題と方針の 1 番に豊富な資源の活用、その下に未活用地の活用という表現があるが、できれば有効活用という。有効という結果を求める観点を入れればどうかと思う。下に書かれている基本コンセプトの中に、豊富な資源を活かしたとあるが、活かすだけでいいのか気になった。それと持続発展する魅力ある交流拠点というのが気になった。せっかく開発して相当なお金をかける。投資効果という部分と、資産の有効活用というビジネスの観点を入れたらどうか。魅力って人それぞれ求めているものが違うと思う。そのときに世の中で誰にとって魅力的かと考えたときに、岸和田市民が必要としているのか、泉州地域の人なのか、もしくは、海外旅行者の人達なのか。インバウンドの人達が来てくれたら市域が潤うというのがある。誰に魅力を提供するのかということも考えて、この構想に取り組んだらどうか。今、外国の訪日客が困っているのは魅力ある宿泊施設。宿泊施設の中においても大きなビルのようにお金をかけるものもある。2階建てくらいのもを作るというものもある。そのときに岸和田の地域の文化を体験できるような施設を作れば安く上がる。資産の有効活用でこれだけの土地と面積があるので何も構想する必要はない。だから、資産の有効活用と必要とされるものを提供することによって他からの客を集める。その人が来たら、カンカンに買い物に行ってもらえばよい。宿泊したら時間がある。時間があれば周辺地域に出かけ

ていける。そうした部分に漁港の特色を生かした形でマッチングするなど。資産の有効活用することでニーズに応える。誰のニーズにといいるところに視野を広げる。交流拠点となると市民とこの場所、市と市の交流拠点、それで終わってしまいます。それを求めているのは一部だけだと思う。参考にしていただければ。

(委員) 岸和田漁港は日本広域水産業再生委員会で長崎の五島列島について、日本で2番目に承認された。北海道や東北から見学に來たりしている。お金を使うのはもったいないのではという意見でしたが、我々は国から助成を取って、もうほとんどできあがった状態です。施設をするのはこれからですが。その一環として地蔵浜みなとマルシェを運営している。これは市民の皆様に喜んでもらうため、赤字覚悟でやっています。近隣の商店からの反対もありました。でも、これからこの場がだんだん広がるように努めていくつもりです。そういう理解も得ていただいて、もう少し場所も広げていただけたらと思います。現在2,000坪の土地を港湾局から借りてやっています。

(事務局) ありがとうございます。植野委員がご指摘いただいた、誰のニーズかということですが、おっしゃるように市民の方々に焦点を絞るとなると、広域的な視点が欠けるということになります。ごもっともな意見です。現在関西国際空港からインバウンドの方々が大阪市内や京都に來られており、一部岸和田市に泊まっている人もおられます。しかし、岸和田市内には大きな宿泊施設がないという現状がごございます。そういった方々を取り込めるような街づくりをしっかりとやっていきたいと思っています。ホテルのことにつきましても、市内に中規模以上のホテルを誘致できるよう模索しているところです。来るか来ないかはホテル事業者の選択によりますが、岸和田市内に來ていただけるような環境づくりをやっていきたいと考えています。

もう少しご説明しますと、地蔵浜のみなとマルシェは2ページ目のゾーニングの6、7のところです。にぎわいを作るという意味で、地域の漁業者が自主的に競りをし、加工をし、毎週日曜日に9時から3時くらいまでにぎわいを作ってやっていただいている。それと2の商業ゾーンのところでは、キーテナントのイズミヤが撤退したことで、我々もどうにかしていかなければならないという思いでいる。それがマイナスイメージでなく、もう一度旧港に脚光を浴びるようにしたい。スポーツドームもありましたが撤退してしまって空地になっている。そこも含めてもう一度この地域に光をあてたい。市民も含めて地域の人に見てもらいたい。スポットをあてたいという思いで魅力づくり構想を進めているところです。ホテルについてもおっしゃるとおりで、長年岸和田市でも欲しているところです。これが5の文化交流ゾーンの中で旧港の計画ではホテルが建つことになっているが、それも計画半ばで頓挫した状態です。今、インバウンドで活況を呈する中で、もう一度ホテルについ

でも旧港の以前の計画に彩りをつけて、今にあったような魅力づくり構想に変える。それと地蔵浜の漁業、海を生かした集客、もしくは、産業的な発信ができないかという思いで魅力づくり構想を考えている。周りには鉄工団地も春木漁協も木材コンビナートもある。周辺の企業が元気ですが、コンビナートの中に貯木が浮いていないことが岸和田の課題だと思っています。臨海部の課題もたくさんありますが、以前からの開発をイメージしたここに重点的に集中させて、一度しっかり見直してみたい。市も国もあげてやっていきたい。

(委員) このコンセプトのところですが、もう少し的を絞ったような、対象がわかるようなものにした方がいいのでは。あまりにも大きすぎる。ひとつの案ですが、岸和田の江戸時代の街並みをもってるとか、郷土をアピールする形で人集めをするとか。コンセプトの中的を絞った方がいい。だから、近代的な街づくりにするのか、江戸時代のような街づくりをするのか。それともうひとつはこれだけのエリアがあるので、市民が安心して運動ができるように、外周全部にランニングコースを作るとか、ウォーキングのコースを作るとか。そういう形で、市民の方にはこういうものを提供しましょう。このエリアの中では岸和田の城下町のミニ的なものを作って、商店街の人にここに来て店を出したらどうですかとか、宿泊施設については民泊みたいなものをイメージして、市民で外国人をお世話できるような人を募って、市民と一体になったようなことをするなど。もう少し的を絞った方がいいのでは。先ほど漁協さんでもありましたが、活性化のために店をする場合、店のコンセプトをどうするのかとなったときに、今風の洒落た感じにするのかどうか。外観をするにしても全部同じ外観にするとか。たとえば、漁協のあるところは古い郷土を強調するような形にするとか、北の方はすでにビルが建っているから斬新な洒落た形にするとか。そんな風にちょっと具体的なコンセプトを入れた方がよい。統一感がない結果に終わるのではないかと気になったので、参考にしていただければ。

(事務局) ありがとうございます。そういう意味でゾーニングの絵を見ていただくと、4番のスポーツレクリエーションゾーンということで、ここはスポーツを楽しんで商業施設で買い物をして楽しんでいただくところです。それがスポーツレクリエーションゾーンなど、ざくっとしたゾーニングをしています。5番、6番については漁組さんの海産物を楽しんでもらうところになっています。先ほど植野委員さんがおっしゃったように、特化して狭い意味で魅力づくりをしようとはできていない。漠然としているが、あえて漠然とした形にして、いろんな色に事業主さんができるようにしている。でも、コンセプトとして、この地域は海に特化しているなどのメッセージを発信して、それを港湾計画などにも反映していただけたらよいという思いで作っている。逆

に甘い目の方針を出している。これから市民の意見も聞かせてもらいますので、忌憚のないご意見を聞かせていただけたらと思います。

(委員) 要は、この委員会の役割はこの構想の中では何か。

(事務局) 意見を言っていただくということです。これはたたき台です。

(委員) ここの委員は岸和田で生をなしている人たちばかり。ここの意見をまとめるのが一番的を射ているのでは。市民代表もいればいろんな団体の代表もいる。

(事務局) このたたき台に意見を言っていただければ。

(委員) それなら、私が行政に話しをするのではなく、委員長に言うべきではないかと。ちょっと混乱していてすいません。この委員会の役割はこの構想の中で何をするのか。行政に意見をいう立場なのか、我々岸和田市民の意向をまとめるのか。理解に苦しむところです。

(事務局) この旧港魅力づくり構想の提案については、こういう構想を進めています。については各業界のトップである皆様にご意見をお願いできないかということで、意見を聞く場だと思っています。ここで決めようというのではない。大阪府であるとか、周辺の企業とも話をしながらまとめようとしているので、大きな目で、経験を生かしているいろんなご意見をいただければと思います。

(委員) ということは、ここの委員は行政に個々の意見をいう場でいいのか。

(事務局) そうです。ただ、ここだけで決まるものではない。

(委員) 市民の声を集めるときに、どのように集めるのか気になります。

(事務局) 1ヶ月間でパブリックコメントを受け付けますので、市民の意見も聞くし、活性化推進委員会の意見も聞くので、いろんな意見を聞いて最終まとめていきたい。

(委員) わかりました。

(委員長) もうすぐパブリックコメントに入ってしまうので。逆にいうと、今このチャンスしかないわけですね。

(事務局) ここで言えなくても、持ち帰っていただいて結構です。パブリックコメント

は5月から1ヶ月間とイメージで思っています。そこで言っていたいただいてもいいし、4～5月にもう一度この会議がありますので、そこでご意見いただければと思います。

(委員) ということはいろんな人の声を聞いて、それを行政がまとめて、ここの総合の開発を企画するということですね。

(事務局) 港緑町の関連の事業者もいますので、そちらとも歩調を合わせる必要がある。

(委員) もうひとつ気になるのが、カンカンや浪切ホール、マンションを建てて何年ですか。結果として当初意図したと違う結果になった。世の中も変わったけど。その反省もある。反省の部分は、何の見込みが違ったのか。そういうことをしっかりしないと、また二の舞では。その心配をしている。文化は永遠に続くものだから、それを生かすような、そういうコンセプトをどうしても私は要望します。気になるのは、交流拠点というコンセプトです。

(事務局) コンセプトですが、文化交流ゾーンのコネプトも非常に重要であるし、漁業組合さんが取り組んでいただいているものも非常に重要な部分であるので、岸和田市としてはすべてが重要だと考えています。今は、基本構想のコンセプトということですのですべてのエリアを含んだ形の大きな構想になっています。個々のコンセプトについては、構想ができた暁には進んでいくことになる。事業の実施コンセプトはそれぞれの区域で出てくる。たとえば、文化交流ゾーンのその具体的事業コンセプトは何か、ということをそれぞれでお話を進めていくことになる。

(委員) 一番気になっているのは、ゾーンごとにコンセプトときたら統一感がない。それを心配している。ハウステンボスやユニバーサルシティにしても、構造改革してコンセプトを変えることで復活しています。悪い事例がいい事例に変わっている。今の話を聞いたら、商業ゾーンは商業ゾーンでコンセプトを決めてやります。漁業の地域は漁業の地域でコンセプトを決めてやります。それがやろうとしている結果につながるかというと、全体で統一感のない形になる。全体のキーワードが交流拠点になったらおかしいのではないかと思う。コンセプトという中で全体を具体的にどうするのか。交流拠点ではないのでは。

(事務局) たしかに、たとえば基本コンセプトがないまま各ゾーンの事業実施コンセプトが作られると、おっしゃるようになってバラバラなコンセプトになる。しかし、中心となる本体の基本コンセプトがあって、それを想定しながら、各ゾーンの事業実施の具体的内容を進めていく。すると、みんなが頂点のコン

セプトをにらみながらそのゾーンを考えていくことになる。頂点がずれていなければ、本来の目的に沿った事業実施が全体のゾーンで進められると考えています。植野委員の意見につきましても、一旦持ち帰らせていただいて議論させてもらおうと考えています。

(委員) どれだけの期間内にやりたいということを明示しないと、岸和田の財政基盤からいうとこれだけの開発は不可能。府や国の助成金をもらおうとすると、政治力しかないと思う。ここで決めても毎日進んでいる中で、10年後、20年後と言っても間に合わない。10年後や5年後と切って話しを進めていかないと消えていくと思います。

(事務局) たしかに、何年後にどうという絵が描けていません。最終的に平成28年度に港湾計画の見直しが予定されているので、少なくともその中に我々の思いを書き込んでいただきたいという趣旨があります。それを書き込まない限り、そこに何かを建てたいというのがあっても、ここは埠頭用地ですからできませんというのが府の方にもあります。ですから、その計画の中に地元の思いを府港湾局に伝えて、港湾計画に反映してほしいという趣旨で構想を練っています。ご指摘のとおり、いつまでというものが全く視点から欠けています。

(委員) 港湾計画を見直したら、今建っているものをどうこうという意見が言えるということか。マンションができているのをどうこう言えるのか。

(事務局) 今のできている部分についてではなくて、空いている部分についてです。

(委員) このように分けているのは、すでに建物が建っているからそのとおりに分けないと仕方がないということですか。

(事務局) 基本的には商業ゾーンのところを今から建て替えて別の何かをするということは全く考えていません。

(委員) 私もそんなことは考えていません。あるものを活かすという中で、空いている土地を活かすのが一番ですよ。

(委員) 空いている土地ってどの辺りにありますか。

(委員) たとえば、港湾内でも港湾施設になっているわけで、水産施設ではない。だから漁業には使えなくなっている。しかし、来年度6月頃から用途変更できるようになっている。



- (委員) そしたら、かなり敷地が確保できるということですか。
- (委員) 水産関係ならどのように使ってもいいというようになっています。
- (委員) 水産関係という縛りがあるわけですね。
- (委員) 水産、観光、商業も含めてです。ですから、みなとマルシェもその一貫です。
- (委員長) 前後の流れがわからなくてこれだけが出てきたので、みなさん戸惑っているのかなと思います。平成 28 年度に港湾計画ができるから、魅力づくり構想をもぐりこませれば、岸和田市の思いを港湾計画にも反映できて形になっていくだろう。ただ、いつになるかわかりませんということですね。
- (事務局) 港湾計画は毎年見直しているわけではない。5 年や 10 年単位です。そのタイミングが 28 年度にめぐってきている。我々も遅れないように、旧港についてはこういう魅力のある地域にしたいという思いを発信したい。皆さんの思いを意見として集約したいと思っています。
- (委員) 実現に向けての案ですか。提出用ではないのですか。実現に向けての市民のためのものですね。
- (事務局) 6 番、7 番の漁組さんがしていただいている海産物の発信をしながら、集客できる旧港にしたいという思いがあります。これだけ出すのでわかりにくいかもしれません。
- (委員長) プロデューサーが岸和田市になるのですか。エリア全体をプロデュースするのは。
- (事務局) 地蔵浜を含まない旧港のときは、大阪府、岸和田市、商工会議所、住友商事が入っており、港湾都市という第 3 セクターがやっていた。それが解散して住商が中心になってカンカンのあたりをやってくれている。ここには岸和田市の土地はほとんどなくて、大阪府港湾局の土地、商業施設の土地があり、マンションも建っているのが現状。岸和田市も地元なのでそこに参画しながら意見を出していきたいと思っています。
- (委員) 策定組織の岸和田ウォーターフロント連絡協議会は何ですか。誰がこれに該当するのか。

- (事務局) 3セクが解散したあと、この名前だけが生きている。この協議会は大阪府、岸和田市、岸和田商工会議所、住友商事の4者を中心になっている。港湾都市株式会社が住友商事に移管されて移っている。
- (委員長) その下にオーソライズと書いてあって、そこにこの委員会の名前が書いてある。このオーソライズの意味は。
- (事務局) こういうことをすることについても、産業活性化推進委員会にもわかっておいていただきたいというところです。しなくてよいとなると前に進みませんので、こういう方向性をご納得いただければと思います。
- (委員) たしかこれは住友商事の旧港開発でイルカを泳がせる計画がありました。ホテルの計画もありました。ちょうどこの時期に二色の浜の府有地にテーマパークを作る計画がありました。20ヘクタールの土地です。今ではうまく三洋電機や国華園ができましたが、あれはしなくてよかったと思います。翌年にユニバーサルスタジオの開園があました。同じ時期か、ちょっと早い時期に旧港の開発がありました。イルカ泳がしておいた方がよかったかもしれませんが。イズミヤが撤退したのはショックです。私がずっと見ていて思ったのが、マンションができるかできないかのときにイズミヤが我慢したというのがあった。加えてここにユープができた。そういう意味で言うと、これを計画するときにやらなくてはいけないのが、まず、ウォーターフロント開発が成功している事案を集めなければならない。いろんなところを見るとほとんど失敗しています。たとえば、東京のお台場も空き店舗だらけ。ウォーターフロント事業が成功しているところを探さないといけない。単純に円を描くと半分は海です。人が住んでいない。そういうところをどうするかという問題があります。それからホールなどの核施設といわれるところに、どういう人がどういう思いで来ているのかを調べる必要がある。たとえば、ワールドサービスがやっているリバーユブランは一時期は潤ったとは思いますが、最近はどうなのかを聞く必要がある。泉佐野（にあるリバーユブラン）は回転しているがこちら（岸和田）はどうかと思います。マルシェもどんな客層がどれだけの単価を使っているのか。浪切ホールにはどんなお客が来ているのか、単価どれくらい使っているか。そこが出发点。そこにある近隣1kmの人を呼ぶゾーンなのか、半径20kmを呼ぶゾーンなのか。たとえば、半径20kmというと、ららぽーとが和泉市にありますが、平日に行けばガラガラです。採算取れていないと思います。平日行けば夕方5時になるとお客さんがほとんどいなくなる。そういうことを考えると、どういうお客さんをどのエリアから呼ぶかが大事。データをきちっと取っておいて、それがたたき台になるかなと思います。イルカを泳がすのも案外人が来るのかもしれませんが。貝塚ではおさる列車を走らせる計画があったが結果的にうまくいかなか

った。動物の赤ちゃんを寄せれば人が来るかもしれません。そういう流行でいくのか、歴史でいくのかを考えていくといいのでは。まず、データを集めて、委員会や協議会でかけていくのを早急にされるといいのではないかと思います。

(副委員長) ある種文化交流ゾーンの利害関係者の一人としてお話をいたします。浪切ホールは比較的稼働率が高い状況にあるとは思いますが、果たしてどれくらい波及効果を生んでいるのかは未知数だと思います。結果的にいうと、イズミヤがしんどかったのはそういうところがあったのかと思う。文化交流ゾーンの中に、ホテルを建築する計画があったのは聞いていた。これがまた復活して来るという想定で考えられているとのことですが、正直な話、駅から20分も歩く場所にホテルを作るとどれだけ人が来るか懐疑的です。電車を利用するお客さんを集客するのであれば、駅のそばにホテルがあつてこそであつて、なるべく商店街の中などにある方が、周辺に対する波及効果があると思われまます。こんな場所にホテルを作つて、駅からスーツケースをガラガラ引いても歩いてくるかということですよ。一方で、中国人のようにバスで動く人たちであればいいかということ、今度は大型バスの駐車場が必要になります。駐車場の整備を考えれば、スポーツレクリエーションゾーンを潰して駐車場にするのは本末転倒。ですので、ホテルは一旦慎重に検討された方がいい。今のところ、たしかに爆買ツアーでインバウンドが好調ですが、いつまで続くかは全く読めない状況の中で、大阪市内でもこれから2,000室分もホテルを増やす計画が持ち上がっています。そこと競合したときに、爆買ツアーが終わった後、不良債権化するおそれがあります。府下全体で客室供給をどうするのかについては、岸和田市が考えることでもないし、府が調整に入るべきことでもないと思います。強いて言う、府の観光局などが知恵を絞っていただくところかなと思います。その辺はご検討いただいた方がいいかなと思います。

(委員) 私もホテルは反対です。民泊的な宿泊施設をイメージしています。文化を味わってもらえるようなものをイメージしています。誤解されたらつらいのでそれだけ申し上げておきます。

(委員長) 何かご提案や意見などがあれば事務局の方に直接伝えていただければと思います。引き続き議事3のその他について事務局からごさいませか。

(事務局) ございません。

(委員長) 引き続きまして、事務局の方から次回の日程についてお願いします。

(事務局) 次回の日程は4～5月になります、また、日程調整にご協力をお願いします。

(委員長) それでは以上を持ちまして、岸和田市産業活性化推進委員会を終了します。  
ありがとうございました。

(以 上)